

【好奇心】と【探求心】で未来を拓く！

優良図書、有用情報の所在案内（『生涯学習の友』）

『取って置きのノート』

②4臨時号 2024年10月

知性と教養（7）

自分イノベーション。 内に秘める可能性、強み、持ち味に気づく！

自分を変える。 常に上書き、更新して、タフに生きる。

古い陳腐化していく体質を脱して、生まれ変わる。

『共鳴する未来。 データ革命で生み出すこれからの世界』

宮田裕章 著(河出書房新社、2020年9月)

・「価値革命」の時代。 データ、AIを活用し、これまで手の届かなかった少数派の声を浮かび上げらせ、「人間らしく生きる」を再定義する。 データ駆動型社会はヘルスケアから始まる。

・マーケティング等において平均値狙いから、個別ニーズに沿ったアプローチができるようになる。 不安定な世の中で、自分の好きなように「いのち輝く未来」を作っていく。 データを使うことで貨幣以外の価値の重要性を探していく。

『天才たちの日課。 クリエイティブな人々の必ずしもクリエイティブでない日々』

メイソン・カーリー 著、金原瑞人、石田文子 訳(フィルムアート社、2014年12月)

・ヘミングウェイは毎日書いた語数を記録していた。フロイトの散歩はたいへんなスピードだった。ストラヴィンスキーは作曲に行き詰まると倒立をした。マルクスには金銭管理能力がなかった。ピカソはアトリエでたくさんのペットを飼っていた。

・日々の生活に規律を与え、自分自身を「プログラミング」するために必要な日課(ルーティンワーク)は、不要な迷いから身を守ってくれる。「日課」とはクリエイティビティを発揮するために必要な土台。

『自分を変える89の方法』

スティーヴ・チャンドラー 著、桜田直美 訳(ディスカヴァー・トゥエンティワン、2013年1月)

・まず行動すること。行動するから、やる気が出てくる。自分の思考が周囲の見方に繋がっている。仮の「さらに高い目標」を掲げれば、それに向かう新たなアイデアが発生する。

・不安に集中しない。目標に集中する。反応しない、対応する。心の炎は自分で燃やせる。最高の自分を想像し、自分がそうであるかのように行動する。

『手の倫理』

伊藤亜紗 著(講談社、2020年10月)

・人が人に「さわる」、「ふれる」とき、そこにはどんな交流が生まれるのか。触り方によって感じ方は違う。「ふれる」が相互的であるのに対し、「さわる」は一方向的なもの。「さわる」ことの持つ危うさ。

・触覚による意識の伝達。介助、子育て、教育、性愛、看取りなど、さまざまな関わりの場面で、コミュニケーションは単なる情報伝達の領域を超えて相互的に豊かに深まる。

『デカルトの憂うつ。マイナスの感情を確実に乗り越える方法』

津崎良典 著(扶桑社、2018年1月)

・難問は分割せよ。悲しみは少しずつ解消せよ。「初志貫徹」と「臨機応変」を両立せよ！未練と後悔とを引き起こすのは優柔不断だけ。変えるべきは自分の「思想」だ。

・我思うゆえに我あり。精神は有限であるが、意思は無限であり、意思には同意の働きを持っている。たっぷりと「自分の能力を使いきる」。逃げるな、まっすぐ前に進め。

『デジタルで読む脳×紙の本で読む脳。「深い読み」ができるバイリテラシー脳を育てる』

メアリアン・ウルフ 著、大田直子 訳(インターシフト/合同出版、2020年2月)

・デジタルで読む場合、時間的・空間的な位置付けは全て概念的なものとなり、細部を大きな全体像に位置づけにくい。また、デジタル画面を通して得る情報はデータ量が多くなりがち。そんな膨大なデータの全ては処理しきれないため、現代人は、結果的に情報を読み飛ばす癖がついてしまっている。

・デジタルで読むことに慣れた場合、紙の本を読む場合でも「デジタル読みモード」で読んでしまいがちになり、かつてのような「深い読み」を行いにくくなってしまう。デジタル時代の子育て(紙とデジタルの両立)。

『君なら勝者になれる。成功者の「態度」と「行動」の法則』

シブ・ケーラ 著、サチン・チョードリー/監修、大美賀馨 訳(フォレスト出版、2015年3月)

・成功の85%は態度で決まる。それは「思考」、「仕事に取り組む姿勢」、「情熱」を含めた行動姿勢のこと。成功する前から勝者として振る舞う。

・老犬に新しい芸を仕込め！人生にはリハーサルはなく、一発勝負。人生ではレッスンより先にテストがやってくる。言い訳せずに、さっさとやれ。あの時「やっとならばよかった」と言うな。

『13歳からの億万長者入門。1万円を1億円にする「お金の教科書」』

ジェームス・マッケナ、ジェニー・グリスタ、マット・フォンテイン 著、関 美和 訳
(ダイヤモンド社、2021年9月)

・アメリカの学生が幼少期から学んでいる3つの力: 「稼ぐ力」「貯金力」「投資力」。複利は宇宙最強の力。投資という名の冒険に出よう。あとは行動あるのみ。

・9割の人は行動しない。目標を期間で3つに分けよう(短期、中期、長期)。億万長者マインドセット(貯金を増やし、支出を減らす)を身につけることで賢く暮らす。お金の貯め方のコツは「必要なもの」と「ほしいもの」を区別すること。

『伝え方の魔術。集める・見抜く・表現する』

及川幸久 著(かんき出版、2021年2月)

・知的正直さ。情報収集をルーティン化。「伝える」上で重要なのは「技術」と内容(ネタ)。そのためには、「情報収集力」と「伝える技術」を身につけないといけない。情報収集は視野を広くできる。情報収集は「目的ありき」で行う。

・主権国家において何より大事なこと。それは、自国に「愛情」(パッション)を傾けることによる、国民一人ひとりの自然発生的「至福」が希求される。そうであれば、「人に与えることが、自分の幸福につながる」という、万国共通の法則をあまねく広めるのも良いのではないか。

『思考は現実化する。あきらめなかった人々』

デニス・キンブロー、ナポレオン・ヒル 著、田中孝顕 訳(きこ書房、2016年10月)

・逆境こそが最大のチャンス。誰にでも人生の中で必ず、つらい経験が重なるような時期がある。しかし問題は、そこで投げやりになってあきらめてしまうか、それとも「雌伏のとき」と考えてチャンスをうかがい、あきらめずにまい進し続けるか。その選択と決断によって、その後の人生が大きく変わる。

・人はいつだって自分の現状を環境のせいにする。私は環境を責めることはしない。この世で成功している人というのは、立ち上がって自分の望む環境を探した人たちだ。そして、もし見つからなければ、自分でそれをつくった人たちなのだ。

『伝え方が9割』

佐々木圭一 著(ダイヤモンド社、2013年3月)

・「ノー」を「イエス」に変える7つの切り口: 「相手の好きなこと」「嫌いなことは回避」「選択の自由」「認められたい欲」「あなた限定」「チームワーク化」「感謝」。

・言葉はひらめくのではなく、作れるんだ。重要なのは「相手の頭の中を想像する、人を動かすのはルールではなく感動」。さらに、相手の反応をよく観察。

『父親の科学。見直される男親の子育て』

ポール・レイバーン 著、東 竜ノ介 訳(白揚社、2019年6月)

・父親の遺伝子は、時々の環境変化に適応をして来ており、父親の少年時代の環境、栄養状態などが、遺伝子のon をoffに反転させて、子の遺伝子にまで影響を与える。つまり、子が成年になるまで父親が子にきちんと接すれば、子子孫孫にまで好影響が及ぶ。

・父親よ、幼児と量的(長時間の)接触を。それだけで子や孫は、自分を凌駕する。

『運気を磨く。心を浄化する三つの技法』

田坂広志 著(光文社、2019年10月)

・自分は、「強運」であることに気がついているか。幸運は、「不運な出来事」の姿をして、やってくる。ポジティブな想念を持つことが大切。

・人間万事塞翁が馬。世の中は表裏一体。良いことも見方によっては悪いことになる。悪いことを悪いこととしてとるのでなく、それも良いことと捉える心の持ち方が大切。

『私たちはできていないが、成功者はやっている52のこと』

ナポレオン・ヒル 著、田中孝顕 訳(きこ書房、2019年1月)

- ・なぜ、52なのか？ それは、1年間は52週だから。このメッセージを1週間に一つずつ実践していけば、1年後、あなたはぐっと成功者へと近づいているだろう。1年後、あなたはどうなっていたいですか？
- ・自分の時間と労力を他人に与えよ(奉仕)。心に熱意の火を灯す「進取の気性」。成功者は苦境から逃げずに、チャンスととらえ立ち向かう。圧倒的な行動量によって、量が質に変わる。

『スヌーピー、こんな生き方探してみよう』

ほしの ゆうこ、チャールズ・M・シュルツ 著、谷川俊太郎 訳(朝日新聞出版、2005年4月)

- ・人生に宿題はつきもの。人生で不愉快なことを避けようとするのは間違っているよ。人それぞれ輝く個性を持っている。コンプレックスは人生の原動力。幸せは自分なりに考えること。
- ・仕事だって好きになりたい。いまある仕事に好きな部分を見つけ、前向きに取り組んでみる。そこから得られたアイデアや思考法、人間関係などは、将来きっと自分へのご褒美として戻ってくるでしょう。

『まんがでわかる デザイン思考』

小田 ビンチ 著、坂元 勲／イラスト、田村 大／監修(小学館、2017年10月)

- ・デザイン思考はイノベーションを起こすプロセス。創造力は誰にでもあり、創造するのは楽しい。潜在的ニーズを見つける「着想」、アイデアを創造・構築・検証する「発案」、市場に導入する「実現」。
- ・良いアイデアを得る最良の方法はたくさんのアイデアを得ること。普通を見直す。今の当たり前は、過去の非常識ということがよくある。ネガティブな経験がよりポジティブな経験になるよう、経験をデザインする。

『アンドリュー・カーネギー×ナポレオン・ヒル 一流の思考』

ナポレオン・ヒル 著、田中孝顕 訳(きこ書房、2019年2月)

・仕事そのものに対して、恋人と話すときのように強い興味を持てたら、きっと給料袋がふくらむことになるだろう。絶対に出世できない人間には2種類ある。一つは「言われたことができない」人。もう一つは「言われたことしかできない」人だ

・天才とは「体系的な取り組み」を忍耐強く行うことにすぎない。明確な目標、信念、プラスαの努力。

『成功の五角形で勝利をつかめ！「ドラゴン桜」流ビジネス突破塾 実践編』

三田紀房 著(大和書房、2008年5月)

・「読解力」「コミュニケーション能力」「ロジカルシンキング能力」「仮説・検証力ネットワーク力」、そして「クソ度胸」。「成功の五角形」を手に入れて、ビジネスを勝ち抜け！！

・会社を「学校」に置き換えろ！国語力は「教養」でも「品格」でもない。数学力とは「ウソを見破る力」だ。理科で「仮説と検証」を手に入れろ。社会は「ネットワーク力」を鍛える手段だ。

『0才から100才まで学び続けなければならない時代を生きる。学ぶ人と育てる人のための教科書』

落合陽一 著(小学館、2018年11月)

・これからの時代、平均化された優等生よりも、突出した才能が必要。多様性を持ち、自ら課題を解決していく能力。そのためには4つの要素(言語、数学、物理、アート)を学ぶ必要がある。

・言語(ロジック化)、物理(物の理)、数学(統計学的分析やプログラミング)、アート(審美眼・文脈・ものづくり)。オリジナリティと専門性を活かして自分だけのポジションをとる。

『「世界標準」のお金の教養講座』

泉 正人 著(KADOKAWA/角川学芸出版、2014年10月)

・「一生、使えるスキル」は、資格でもコミュニケーションでもなく「思考」。特にお金に関する思考。「信用」の積み重ねが豊かな人生と富を招く。

・お金のことを考えることは、人生(自分のキャリア)に向き合うこと。スムーズに人生を送るために「両面思考」。つまり相手の立場になって考えること。信用×価値を見極めるチカラ×両面思考＝生きるチカラ。

『天才の習慣。成功の秘訣と考え方を学ぶ』

ライブ 編(カンゼン、2022年1月)

・習慣(ルーティン)。【アインシュタイン】余計なことに脳を使わない。重要なことだけに全集中！【スティーブ・スピルバーグ】ほしい情報は自分で直接手に入れる。大胆な行動で現場に入り込む！

・【ブルース・リー】トレーニングと勉強の両方を欠かさずに行う。体と頭脳の両方を鍛え上げる！【糸川英夫】1日のうち2%は10年、20年先のために使う。【エジソン】どこへいくにも、ペンとメモ帳を携帯する。

『性格のいい人、悪い人の科学』

小塩真司 著(日本経済新聞出版、2018年9月)

・性格的特徴を、外向性・共感性・開放性・勤勉性・協調性の5つに分類。どの性格軸も一長一短。安定性と柔軟性の高さ＝性格の良さ＝自尊感情。楽観性、レジリエンス。

・日本の社会の仕組みが自尊感情を高めない。多様性を認め、多くを許容する。「あそび」の重要性。一様に選別される社会は多様性を欠き、変化に対応できない社会。

『早すぎた男 南部陽一郎物語。 時代は彼に追いついたか』

中嶋 彰 著(講談社、2021年10月)

・天才過ぎて理解されず、10年も経ってようやく理解できたというような逸話が多かった。そのため、彼の生涯最高傑作「自発的対称性の破れ」にノーベル物理学賞が授けられたのは発表後50年近くがたってから(2008年)だった。

・座右の銘は「難解な科学をやさしく解きほぐす」。先進的すぎたため「予言者」「魔法使い」とも呼ばれた。幸運は準備された心に微笑む。

『イノベーションの経済学。「繁栄のパラドクス」に学ぶ巨大市場の創り方』

クレイトン・M・クリステンセン 著、依田光江 訳(ハーパーコリンズ・ジャパン、2024年6月)

・経済成長は「市場創造型イノベーション」からしか生まれない。 貧困×ジョブ理論=眠れる巨大市場。 これからの時代、真に成長が見込めるのは買えない/買わない人々の「無消費経済」である。

・電気のない村に暮らすアフリカの約6億人を極貧の指標として見るのではなく、巨大な市場創造の好機として見るべきなのだ。 絶望ではなく、イノベーションを招いているのだ、と。

『スタンフォードで学んだ最強の意思決定。 メンバーの知恵を錬成する実践手法』

籠屋邦夫 著(日経BP、2019年10月)

・「弱い個」病、「衆知破壊」病、「意味不明」病、「積み上がらない」病。 日本企業は「意思決定が遅い」「決まったことが実行されない」と言われており、このことがホワイトカラーの生産性低下につながっている。

・意思決定とは、その決定に自分が責任を持って関わり、実現に向けた様々なリソースの投下にコミットすることができるということ。 日本企業は責任の所在も決定内容も曖昧なことが多く、正しい意味での意思決定ができないことが多い。

『ハーバード・ビジネス・レビュー BEST 10論文 世界の経営者が愛読する』

ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 編、DIAMONDハーバード・ビジネス・レビュー (ダイヤモンド社、2014年9月)

・リーダーは組織を集中させて自社の独自性を守る一方、どのような顧客ニーズや業界の変化に対応すべきかを判断する規律を示さなければならない。

・自己探求の時代。出来ないことはしない。並以下の能力を向上させるために、無駄な時間を使わない。自分の強みに集中せよ。戦略は業務改善ではない。独自の活動なくして真の戦略はつukれない。

『運。ドン・キホーテ創業者「最強の遺言」』

安田隆夫 著 (文藝春秋、2024年6月)

・リスクをとらないのが一番のリスク。「楽観論者」であることが勝利と成功への近道である。人を動かすには「指示と命令」ではなく「感謝とお願い」。仕事を「ワーク(労働)」ではなく「ゲーム(競争)」として楽しむ。

・真っ当な生き方をしている人が運がよくなる。運は誰にでも平等に訪れる。つかんで活かせる人とつかめない人、使いきれない人との違いがある。集団運を育成し、維持して行くことの大切さ。

『組織の掟』

佐藤 優 著 (新潮社、2016年4月)

・あらゆる組織には「掟」がある。暗黙の内に共有され、時に法より重んじられ、破れば大きな代償を払わされる。組織でうまく生き抜く極意とは、この掟を熟知して利用することにある。

・厄介な仕事は、下の者へ降りてくる(物理の法則)。迎合を続けていると、徹底的に搾取される。日本の組織では、下克上は歓迎されない。上司には逆らうな、組織は上司に味方する。

『人間における 運とツキの法則』

藤尾秀昭 著(致知出版社、2022年10月)

・優雅に微笑む幸運の女神。勝負は一瞬。常に何事にも準備ができていられるからこそ、その時を逃すな。幸運の女神には前髪しか生えていない。その前髪を掴み取るのだ！

・人生はかすかな一念の積み重ねによって決まる。小さなことでいい。小さな「よきこと」を決意する。そこから運命の歯車は回転していく。そして決意したら、それを持続すること。花は一瞬にして咲かない。木も瞬時には実を結ばない。

『「説明が上手い人」がやっていることを1冊にまとめてみた』

ハック大学 ペソ 著(アスコム、2022年2月)

・相手は「何を求めているか」を優先する。メッセージ性、論理性。説明下手な人の特徴は、「相手が聞きたいこと」を考えず、「自分が伝えたいこと」だけ話す。

・話す内容にあわせて順序を変えていく。相手が納得するメリットもないといけない。説明は説明者のためのものではなく、聞いてもらう人のためのもの。相手にわかってもらい説明の仕方、工夫必要。

『成長マインドセット。心のブレーキの外し方』

吉田行宏 著(クロスメディア・パブリッシング、2018年4月)

・人はスキルだけでは成長できない。自分の時間を売って、お金に変えるだけが仕事ではない。仕事は心持ち一つで、私たちに大きく成長させてくれる大事なもの。

・結果は選択できないが、行動は選択できる。成長とは「能力・スキル」「ふるまい・習慣・行動」「意識・想い・人生哲学」をバランスよく大きくさせること。

『「数字で考える」は武器になる』

中尾隆一郎 著(かんき出版、2019年3月)

・「四則演算(+ - ÷ ×)」だけで、仕事がレベルアップする。因数分解ができると、行動力も上がる。仕事はリターンと投資で考える。数字が使えると、利益を生み出す「黒字社員」になれる！

・仕事を効率化するためには、仕事の内容を扱えるサイズに分解する。因数分解(課題や仕事の工数管理)。フェルミ推定とROI思考(生産性の向上)。計数感覚を高める(経営者視点=利益の追求)。

『森信三 運命をひらく365の金言』

森 信三 著、藤尾秀昭 編(致知出版社、2022年11月)

・いやしくも人間と生まれて、多少とも生き甲斐あるような人生を送るには、自分が天から受けた力の一切を出し尽くして、たとえささやかなりとも、国家社会のために貢献するところがなくてはならぬ。」(4月11日、ローソクを燃やし尽くす)

・「生き甲斐のある人生の生き方」とは、①自分の天分をできるだけ十分に発揮し、実現すること。②今ひとつは、人のために尽くす。

『着眼と考え方。現代文解釈の基礎[新訂版]』

遠藤嘉基、渡辺 実 著(筑摩書房、2021年10月)

・「文章を読む」とは、書かれた言葉の何を拾い上げ、それらをどう関係づけることなのか。解釈とは「全体の構成をつかみ、言葉を通してその表現的意味を把握すること」。

・発見的読書を勧める。それは「自分の意見や問題意識をしっかりと持ちながら、著者の意見を正しく客観的に読みとっていく態度」である。

『99.9%は仮説。思いこみで判断しないための考え方』

竹内 薫 著(光文社、2006年2月)

・世の中で定説と呼ばれているものは、実は仮説でしかない。世界は仮説でできている。すべては仮説に始まり、仮説に終わる。相対的にものごとを見る。

・自分の頭の中は仮説だらけ、相手の頭の中も仮説だらけ。世の中に100%の客観はないが、思い込みで判断せず、仮説どうしの中の翻訳規則を見出し、相対的な世界観のもとで協調して生きていくことが必要。

『人類の歴史とAIの未来』

バイロン・リース 著、古谷美央 訳(ディスカヴァー・トゥエンティワン、2019年4月)

・「狭いAI」と「汎用人工知能AGI」。AGIは人類と同等の心や意識を持つ人工知能。人工知能は脅威か？ 救世主か？ 専門家の意見が大きく食い違うのは、それぞれが知っていることが違うのではなく、信じていることが違うためであることを理解しよう。

・AIが主流になったとしても人間ができる新しい職は生まれてくる。それよりも、AIによる戦争の時代になったら、人間を使う戦争よりもコストが下がるため戦争が増えるという予想にゾッとする。

『企画脳』

秋元 康 著(PHP研究所、2009年5月)

・根拠のない自信を持つ。「こだわり」「思いつき」「わがまま」を大事にする。できない、知らない、負の部分認める。他人のアイデアや助言に乗ってみる＝脳を増やせる。

・人は環境と状況で変わる。自分の武器を探す。自分だけの視点・情報を持つ。基本は抑え、なおかつ差別化しろ。人を上手に動かすコツは「自分だったらどうするか？」を考えること。

『スモール・リーダーシップ。 チームを育てながらゴールに導く「協調型」リーダー』

和智右桂 著(翔泳社、2017年9月)

・チームとして「学び」を得ることを重要視。 指示するよりも、メンバーの自主的な行動を促す。 カリスマやイノベーションに期待するのではなく、現実的な解決策を探る。

・チームをどんどん動かし、仕事を停滞させない。 権限委譲し、自走する組織。 メンバーを「横着な賢者」と考える。 卓越した成果は多様性が生み出す。 まずは意見を表明してもらうところからスタート。

『向上心。 すじ金入りの自分論』

サミュエル・スマイルズ 著、竹内 均 訳(三笠書房、2011年5月)

・試練や悩みをうまく処理する「柔軟な心」。 どれだけよい習慣を身につけたかで人間の価値は決まる。 決断せよ、そこから行動が生まれる。 今この場で「本分」を尽くす！

・自助、思いやり、忍耐。「どう生きるか」というよりも「どう振る舞うか」。 地道に生きることの素晴らしさ。 勤労があることで余暇に価値が生まれる。 行動で「自分の良さ」を示せ。

『挑戦のススメ』

堀木エリ子 著(ディスカヴァー・トゥエンティワン、2016年1月)

・「好きを仕事に」より「仕事を好きに」。 人生で大切なものは、「ご縁」と「腹の底から湧き上がるパッション」だ。 運は、ご縁から。 ご縁は、運から。

・原点に戻って、自分の仕事の本質を考える。 そこから革新が生まれる。「できない理由」を「できる」前提で一つ一つ消していけば、「できる」という結果しか残らない。

『ハーバード・ビジネス・レビュー 共感力』

ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 編、DIAMONDハーバード・ビジネス・レビュー編集部 訳(ダイヤモンド社、2018年11月)

- ・組織のフラット化が進むにつれて、従来のような上意下達型のコミュニケーションが通じにくくなり、対話型コミュニケーションへの転換が求められている。そこで必要とされるのが「共感力」。
- ・知識から感情的知性の時代へ。共感力は社内だけでなく、社外においても重要なスキル。顧客とのコミュニケーション、マーケティング、商品開発などにおいても、いまや欠かせないもの。

『ぐでたまの『資本論』。お金と上手につきあう人生哲学』

朝日文庫編集部 編(朝日新聞出版、2017年2月)

- ・働く人こそが一番、尊い。お金を稼ぐことに翻弄されすぎないように。生きていくためにはお金が必要だけど、お金を稼ぐことに縛られすぎると不自由になる。高価なものを買っても、使わなければただのゴミと同じ。
- ・一人勝ちをせず、みんなで少しずつ幸せになる。ムダなこと、バカらしいことをどんどんやろう。代わりの利かない唯一の存在。それを目指そう。その成功は、過去の誰かの仕事のおかげかもしれない。

『直観を磨く。深く考える七つの技法』

田坂広志 著(講談社、2020年2月)

- ・直線倫理だけで考えない。二項対立構造で考えない。個別問題だけで考えない。狭い視野だけでは考えない。自己視点だけでは考えない。直観の力を用いて考える(自己対話)。
- ・論理思考＝直線思考。一部だけ切り取ると直線思考になる。自分の中にいる「賢明なもう一人の自分」との対話。AIが担うこれからの時代には、直観が重要。自分の中に天才がいることに気がついているか。

『QUEST 結果を勝ち取る力』

池田貴将 著(サンクチュアリ出版、2018年7月)

・行動の大半は周囲の刺激や、無益な習慣に流されている。行動を仕組み化すれば、意思の力に頼らず、最高のパフォーマンスを維持できる。思考の贅肉を落とし、本当の実力を出そう。

・クエスト、「探求・探索」。行動は、「意思」「反応」「惰性」の3つのモードに分かれる。「惰性」の時間が長いと用事は進まないし、疲れる。なるべく「意思」(自分で選んだことをやっている)のモードを持続させる。

『「大学」に学ぶ人間学』

田口佳史 著(致知出版社、2021年11月)

・上に立つ者の必読書として知られる古典の名著『大学』。徳を身につけようとする人が最初に読むべき本といわれ、2000年以上にわたり読み継がれてきた。

・根本を見据える。徳は本なり、財は末なり。立派なリーダーは「先憂後楽」でなくてはいけない。規範がなければ正しい生き方はできない。傲慢・不善な振る舞いをするトップは天命を失う。

『スキル』

高瀬敦也 著(クロスメディア・パブリッシング、2023年9月)

・スキルとはテクニックではなく考え方。考え方をアップデートしたら、全部スキルになった。捉え方を変える。AIの台頭により従来のテクニック的なスキルはどんどん廃れていく一方で、考える力や考え方そのもので差がついていく。

・人とよく話し、つながる。「結ぶ」力(コミュニケーション)が大切。時代は変わる。スキルも変わる。今を含めた(新しい)時代というプレゼンに対しての人生の企画力。

お金持ちに共通する、たった2つの「運のつかみ方」とは

Pen Online (川畑明美さん／ファイナンシャルプランナー)。2022年6月

①面倒でも努力を惜しまない、②ポジティブに考える。そんなに「上手い話」はない？ 運の量は決まっている。感謝することや諦めないことも大事。

『戦略的いい人、残念ないい人の考え方』

けーりん(唐仁原 けいこ) 著(すばる舎、2024年8月)

・《戦略的いい人》とは、「誰とも戦わずに人の力を借りまくって成功する生き方・働き方」のこと。いつでもどこでもオンラインで人に頼れる「つながる時代」になった今、スキルアップに励むより、人間関係をよくすることが幸せに稼ぐ近道。

・人の上に立たず、人の立場に立つ！ 相手を幸せにする「戦略」を立てよう。成功するのはがんばった人ではなく、誰かを幸せにした人。会社で出世する人は、お客様か上司か経営者を幸せにしている。

『知的文章術。誰も教えてくれない心をつかむ書き方』

外山滋比古 著(大和書房、2017年8月)

・黙ってないで、声を出して読む。自分の書いた文章がなだらかに読めないようでは、他人が読んでわかりやすいわけがない。料理のように、ピリリと辛い。

・文章が持つリズム、テンポ、響き。一文を短くする。「が」を2回続けて使わないようにする。全部書いてからタイトルを決める。焼き鳥の串はテーマである。

『他人をバカにしたがる男たち』

河合 薫 著(日本経済新聞出版、2017年8月)

・「ジジイ」とは「自分の保身のため」だけを考えている人。組織内で権力を持ち、その権力を組織のためではなく「自分のため」に使う人。「会社のため」「キミのため」というウソを「自分のため」につき、自己の正当化に長けている人物。

・なぜ社内で残念な人ほど、社外で偉そうなのか。過去の栄光が華々しい人ほど老害になりやすい。ジジイは女性のなかにもいる。男女比6対4で、初めて個人が評価される職場になる。

『偶然のチカラ』

植島啓司 著(集英社、2007年10月)

・世の中にはどうにもならないことがある。しかし、自分の身に起こったことはすべて必然。それをどのように受け止めて行動するかで人生は180度変わってくる。いい流れには黙って従おう。

・人生には、不思議なめぐりあわせがある。それが「偶然」。未来が見えないときは自分で選択しない。相手に選択させて、自分はそれを見てから判断するのが失敗しないコツ。偶然の力を生かすとしたら「すべてはなるようになる」という柔軟な姿勢は不可欠。

『話せる、伝わる、結果が出る！ コミュトレ。10万人のデータから導き出されたビジネス・コミュニケーションスキル』

野田雄彦 著(ダイヤモンド社、2024年3月)

・「与える心を持つ」「相手の視点で考える」「礼儀と礼節を大切にする」を意識して行動する。コミュニケーションにとって「話す力」は全体の一部であり、会話を弾ませるのは「リアクション」。

・情報伝達としてのビジネス・コミュニケーションは「まず要点」が基本。共感と共有が大事。「情報伝達」のスキルを磨けば、評価は大きくアップする。

『誰も教えてくれない一流になれる読書術』

丸山純孝 著(明日香出版社、2012年4月)

- ・本はまず「タイトル」「前書き」「後書き」を先に読む。必ずしも頭から終わりまで順番に読まなくていい。その本から何を学んで、どう行動(アウトプット)するかが大事。読書は読んだ後が大事。
- ・目標や夢を達成するための3段階:「知る」「わかる」「動く」。読書家は誰も組み合わせない情報を組み合わせて、新しい価値をつくることができる。

『CLEAR THINKING(クリア・シンキング) 大事なところで間違えない「決める」ための戦略的思考法』

シェーン・パリッシュ 著、土方奈美 訳(日経BP、2024年2月)

- ・問題の根本原因を特定する。どんな悪いことが起こりうるか、どう克服するかを想像する。一つの課題に、少なくとも3つの解決策を模索する。
- ・知らず知らずのうちに、良い判断を妨げる本能が働いていることを知る。具体的には感情(怒りや不安)、エゴ(自尊心)、社会性(同調圧力)、惰性(現状維持)。

『彼らが成功する前に大切にしていたこと。幸運を引き寄せる働き方』

上阪 徹 著(ダイヤモンド社、2024年6月)

- ・誰にも共通する「正解」はない。その入社はたまたま偶然だった、と語る成功者の多さ。きっかけは、運や縁やタイミングだった!? じっとしていても、偶然はやってこない。想定外を楽しむ、という心掛け。
- ・五感で会社を感じてみる。人間としての本能が大きく衰えてしまっていないか。好きなことより、得意なことをやりなさい。神様から、お前もなんかせい、と言われて人は生まれてくる。起きていることには、すべて何か意味がある。まずは目の前の仕事に懸命に取り組む。

『幸せと豊かさを手に入れる！ 絶対法則』

ナポレオン・ヒル 著、田中孝顕 訳(きこ書房、2018年12月)

- ・人は深い感情をこめて「なりたい」と思っているどんなものにもなれる。強固に深く根ざした願望は、人類がなし得たすべての発端、種、芽であり、人が実現したすべてはそこから芽生えている。
- ・朱に交われれば赤くなる。どのように生きるかは自分次第だ。自分を信頼できるかどうかが人生の明暗を分ける。苦あれば楽あり。この事実を信じ、前進することが好転を生む。

『数字で考える力』

佐々木裕子 著(ディスカヴァー・トゥエンティワン、2014年8月)

- ・数字こそが世界共通のコミュニケーションツール。できるビジネスパーソンは数字で考え、判断し、先を読み、人を動かす。
- ・「数字で考える力」とは、①数字という事実を切り口に、「何が起きているのか」の本質を把握する力 ②数字を使って自分で考え、確信を持って判断する力 ③数字をコミュニケーションツールとして使って、まわりを動かしていく力。

数字を語るな、数字で語れ

編集・発行(同)ドンマイ(快便研究所)

熊本県八代市長田町2900-2

eメール: info@donmai88.com

HP 「快便研究所」で検索

巷にあふれる雑多な情報の中から、イノベーションを興す素材になるような有用な情報(キーワード)を選びすぐって整理しました。詳しい内容は書籍、情報元から深掘りしてください。そして研鑽、あるいは知恵(付加価値)を生み出す【知的財産】としてご活用ください。

年間購読料：会社、自治体、経済団体等 1万円(税込み)

【個人の場合】は上司等に相談の上、組織購読をお願いします。

この『ノート』は良識派の仕事と人生を応援する読み物です。未納でのタダ読みはご遠慮ください。